



伯森ヨリ 昭和十八年一月二十三日着 (七)

湯本財務官

大藏大臣宛

獨逸第一號

戰爭ノ長期化ト共ニ獨逸ニ於テハ(一)國債發行ノ限度(二)政府支出ト國民所得ノ關係(三)戰爭ニ於ケル減價銷却等ノ理論的問題改メテ論議セラレツツアルガ之ト符節ヲ合セテ英米ニ於テモ(一)ノ問題ハ盛ニ論議ノ對象トナリ居リ、豫算ノ論評ニハ之ヲ國民所得ト對照スルコト敵味方ヲ通シテ最モ履行ハル

(一)獨逸ノ國債ハ本年三月末ニハ約二〇〇億馬克ノ巨額ニ達スヘク豫想セララルガ各種論議ノ一致スル所ハ今日ノ統制經濟下ニアリテハ金融技術的ニハ國債發行ニハ限度ナシト云フニアリ、蓋シ政府支出ノ金額ヲ租稅ニ依レル場合ト異リ之ヲ中央銀行引受方法ニヨル國債ニ俟ツ時ハ國民經濟ニ遊資ヲ生スルコトハ勿論ナルカ今日ノ進歩セラル統制經濟下ニアリテハ物質ノ統制充分ニ行ハルルヲ以テ其遊資ハ市場ト金融機關等ニ集マル傾向ヲ有シ之ニ併セテ遊資ノ吸收及之カ

Handwritten notes in the top left corner: 220, 109, 100, 60, 380, 15.



固定ノ方策ヲ採ル時ハ金融的ニハ無限國債ノ發行ヲ續ケルコトヲ得、此場合切符制割當制任意貯蓄等ニ依リ其國通貨ノ使用價值ハ制限ヲ受ケルモ交換使用ハ完全ニ維持セラレ「インフレーション」ノ懸念等無ク只國債ノ累増ハ戰後ニ於ケル國民所得分配ニ就キ注意スヘキ問題ヲ生スルモ右ハ租稅政策ニ依リ是正スルノ途アリトナス

(四)之ニ反シテ國民生産物即チ國民所得ノ側ヨリ見ルトキハ政府及國民ノ消費シ得ル物資ノ總額ハ國民生産物ノ額ニヨリ強ク制約ヲ受ケルモノニシテ國民生産物ノ増加ヲキ限リハ政府消費ノ増加ハ民間消費ノ壓縮又ハ國民資本(又ハ財産)ノ喰込(獨逸ノ今日行ヒツツアル清算勘定借方殘累積ヲ通シテ、外國物資ノ輸入超過モ之ニ含ム)ニ依ル、外ナク此程度ヲ察知スル方法トシテ(イ)國民所得ト(ロ)政府消費及(ハ)民間消費ヲ對照シ(ニ)資本蓄積又ハ喰込ノ程度ヲ測定スルコト必要ナリトセララル(蘇聯邦ニ行ハレタル綜合金融計畫トハ其實質ヲ異ニス)

(三)然ルニ右ノ如ク各國共資本喰込ハ相當程度ニ行ハレ國民ノ私生活ニ在リテハ衣服、什器等ノ補充見合セトナリ工場ニ在リテハ修繕補修ノ困難トナリ、茲ニ於テ之カ完全ナル補填ハ戰後ニ於テモ不可能ナリトノ見解ノ下ニ之ヲ見越シテ戰時中ニ巨額ノ元價償却ヲ行フハ適

當テラズ寧ロ之ヲ廢止シテ物價ノ引下ニ登スベシトノ論モ現ハレタル
モ獨逸大藏大臣ハ機被設備ノ戰時中ノ過度損亡ニ對スル特別償却ハ產
業界ノ戰時犠牲トシテ之ヲ認メサルモ普通ノ償却ハ認メサルヘカラス
ト態度ヲ明ニヒリ（未完）

一月二十一日